

Benefit of Acquisition
知的財産権の活用で
得られたメリット

- 1 他の違いが「見える化」された
- 2 従業員の「レベルアップ」を推進できた
- 3 諸合する企業との「競争で優位」に立てた
- 4 取引先との「交渉力」を強化できた
- 5 顧客にオリジナリティを「伝える」ことができた
- 6 ノントヨーとの「関係づくり」に活かせた



キヨリティボーナスを策定しました。2020年度からは全社員を対象に情報セキュリティ講習も始めています。営業・設計・製造など、流出のリスクは部門を問わず負っているので、全社的に取り組むことが必要だと考えていました。例えば、図面や開発コンセプトを記した資料をお客様に渡すと、それが同業者の手に渡ってしまう可能性もあるという意識づけが必要です。また、SNSやクラウドなどのツールを導入しています。

発明の機運を高め アイデアが増幅する 活力ある企業を目指す

— 社内における発明を推進するために、職務発明規程を導入されたそうですね。

— 特許化した技術を活用するのと同じよう



プロセス開発部係長
入江 彰一さん

事務取扱役
狩山 昌弘さん

— 入江さん、今後は製品開発部門だけの話で特許情報や知的財産に関わっているという意識を持つことが重要ですね。

— 入江 様設計担当者であれば、自分が手掛けている図面で常に新しいアイデアを盛り込むことや、既に特許出願されているものでないか先行技術調査を行うなど、一つ一つの業務の中でも財意識を持つことで仕事のレベルも上がると考えています。

— 久間さん、例えば、製品について説明するために設計図をその場で見せるのはOKだけ渡すのがNGというふうに、あらゆる場面において知財意識は必要だと感じます。特許庁の職員の方にも当社セミナーに来ていたら、そうした意識は社内でも高まっています。困ったときはNGというふうに、自分の会社の中では、最も数字の仕事の中にも遊び心を持ちながら、新しい価値を生み出していきたいですね。一分一秒を惜しみ、単純なハードワークによって生産性を上げるというのは面白くないですから。

— 狩山さん、日々の業務に追われていて、なかなか自由な発想は出てこないので、よし会社の中に余白をつくったり、その余白の中で長期的な視点を考える時間を設けたり、皆で未来のことについて語る時間をつけていきたいと考えています。当社は、ものづくりの会社の中では、量も数字のことを言わない会社かもしれません。普段の仕事の中にも遊び心を持ちながら、新しい価値を生み出していきたいですね。例えば、フジワラテクノアートの中で社内ベンチャーを立ち上げたらどんなビジネスができるのか。それぞれのグループが発表を行い、コンテスト形式で投票してもらおうというような取り組みを少しずつ始めたところです。まずは、そういう社内の雰囲気を醸成することから始めて、ようやく職務発明規程づくりまでたどり着きました。

『知財』を『知財』で 終わらせないために これまでにない価値を デザインしていく

Company Profile 株式会社フジワラテクノアート

代表取締役社長／藤原 恵子
本社所在地／岡山県岡山市北区富吉2827-3
事業内容／醸造機械・食品機械・バイオ関連機器の製造・販売
電話／086-294-1200



海外展開を視野に
ノウハウを守りながら
模倣品販売リスクを回避

— 海外への事業展開のための特許出願においては、情報が公開されることによる技術流出というリスクが伴います。特許出願についてどのようなスタンスをとられていますか？

狩山 当社では、1990年代の中頃は特許取得件数が多くありました。その後、中国への輸出件数が増えたのを機に、特許出願を日本で行うと同時に中国でも行うようにしました。ノウハウを守るために特許出願しないという考え方もありますが、基本的に出願しておかないとやはり怖いですね。どんな企業がどんな形でライバルになり、出願されてしまうかは分かりませんから。根幹となる技術はノウハウとして守りながら、特許出願することによって模倣品が出てくるのを防止しています。

— 営業秘密に対する意識醸成にも力を入れていますね。

狩山 営業秘密という点では、図面や取引リストなどを社外に流出させないように情報セ

漏れが大変だと思っています。そのためにも社員一人一人がアイデア創出を自分事として捉えながら感性を高めていく組織づくりが大切です。

— 今后も醸造業界をさらに盛り上げていくため、努力ながらできる」とを少しすり着実に実行していきたいと思います。

Column

企業支援の
実際について、
鈴木専門官に
聞いた



産業財産権専門官 × 企業支援
産業財産権専門官って
何をしているの？

— 取材の中でお名前が出ていました、「そこでいろいろとお話をかがいたいと思います。まずは、支援のきっかけは何だったのですか？」

過去に訪問させていただいたことがきっかけです。近くに出張する機会があり、知財活動に積極的な企業を調べていて「フジワラテクノアートさん」ということがあります。

最初は、企業秘密管理に関する相談でした。ちょうど社内の意識管理を強化したいという二ヶ所があり、そのため何かサポートをお付きいさせてもらっています。

— 鈴木専門官が直接支援されるのですか？

内容によります。このときは「NPI-1の商業秘密アドバイザリー」を紹介して、相談対応と社内情報管理のセミナーを開催していました。支援策を役立てていただけではありませんでした。支援策を役立てただけで、補助金や専門家派遣など最適なものを探してきました。「このときのような専門的な課題には、事前に企業さんを求める「オールを一緒に明確化するとともに、「専門家」に企業さんの課題や状況をお伝えしたりもします。いわゆる「通訳」のような立場でしようか。一般的に馴染みの薄い世界ですからね。

— 通訳ですか？ 確かに知的財産といふことは、専門家に企業と一緒に明確化するとともに、「専門家」に企業さんの課題や状況をお伝えしたりもします。いわゆる「通訳」のような立場でしようか。一般的に馴染みの薄い世界ですからね。

日頃から専門家支援に同行したり、各種支援策について把握したりしていますので、企業さんが実際に利用するシーンをイメージできるように伝えています。情報だけではなくネットで見られますし、我々の役目は、伝えることかな。

このセミナーをきっかけに「社内の意識改革を進めたい」ということになり、知的財産全般に関するセミナーも社内で開催することになりました。制度全般ということだと私担当になりますので、このときは講師を務めました。狩山専務からもお話をありました。が、開発部門に閉じることなく、営業や総務などさまざまな部署からご参加いただきました。若手の方を中心を集めさせていたいたと記憶しています。そのため、制度よりも活用というか、日々の業務でのどのように知的財産が関わってくるか、についてお話ししました。まずは身近に感じてもらわないと意識の定着になりませんから。結果的に「好評」になりました。その後も継続して数回セミナーを実施しました。

— 情報を紹介する際に心がけていることはなんですか？

企業さんの良い相談相手になりたいと思うて、中小企業の知財担当の方々へ別の業務との兼務や、いつも一人とかのことが多く、みなさん孤軍奮闘な印象があります。知

的財産って、少し専門的というか普段はあまり馴染みのないテーマなので、一緒にお話ししていく中で、課題や方針を整理していくけれど、私が何を決めるとはせず、参考になる情報を少しでも多く提供できるようになります。

それと、予算的なこともあります。私が頻繁に訪問することは難しいので、より細やかにサポートできるように地域の知財総合支援窓口と連携しています。私は支援の主体ではなく、あくまで駆け出し。地域の支援機関の皆さんほどとも丁寧に対応していただいている。

— 企業をしっかりと見てくる存在が地域にあれば安心ですね。最後に、読者の皆さんにメッセージをお願いします。

偉そうなことは言えませんが、我々をうまく使っていたいです。ありがとうございます。フジワラテクノアートさんは気軽に連絡いただけるので、タイムリーに情報を届けすることができます。企業さんのスピード感については大変ですが、そうしないとせっかくの取り組みの効果が薄んでしまいます。私が常に企業のことを見直しているとできませんので、何があったときに連絡をいただけます。企業さんのスピード感については大変ですが、そうしないとせっかくの取り組みの効果が薄んでしまいます。私が常に企業のことを見直しているとできませんので、何があったときに連絡を

President Interview

「テクノ(技術)」と「アート(感性)」の両輪で
新たな価値を創造しつづける

2018年、開発の具体的な方向性を指示した「開発ビジョン2050」を打ち出しました。製造業界では8割のシェアを占めていますが、そこで満足するのではなく、2050年の未来に向けて、さらなる価値創造に挑戦したいと考えています。具体的な企業イメージは「製造を原点に、世界で「微生物インダストリー」を共創する企業です。微生物インダストリー」とは、微生物の潜在能力を引き出し高精度に応用利用する産業分野のことです。当社で主力である醸造の他にも、食糧・飼料・エネルギー・バイオ素材などさまざまな業界に展開し、将来さらに深刻化していく人口問題、食糧問題、環境問題などの社会的問題を解決していきたいと考えています。

社大な開発ビジョンを実現していくには、従来とは異なるイノベーティブな発想が不可欠です。知財意識醸成や発明奨励のための職務発明規程などの仕組みを整えながら、活力に



取締役副社長
藤原 加奈子さん

— 職務発明規程づくりに取り組まれているようですね。

「開発ビジョン2050」

自指す未来に向けて掲げる

目指す未来に向けて掲げる
「開発ビジョン2050」

社会的課題を
解決していくために
新たな事業へも挑戦

— 取り組みの成果はいかがですか？

「開発ビジョン2050」を立ち上げると同時に、そのビジョンを実行推進する未来技術革新委員会を立ち上げ、さまざまな部門からメンバーを募集しました。これまで開発部門だけ取り組んでいましたが、そこに経営陣や他部門も加わり現在は全社で開発を取り組んでいます。委員会では、開発のプロジェクト

以外の新たな事業への挑戦もたくさん含まれています。

いまぐるしく変化していく未来において、これらプロジェクトが社会的課題を解決していくには、社員一人一人がさらに感性を刺激され、視野を広げるための環境づくりや仕組みが重要と考えています。社名にある「テクノ(技術)」「アート(感性)」を同時に突き詰めながら、はるか先の壮大な目標に向けて新たな価値を創造しつづける会社を目指していくたいと思います。

2018年からスタートして、現在機能性鋼糸・粉末焼成・AI・IoTなど16個のプロジェクトを同時に進めおり、その中には醸造以外の新たな事業への挑戦もたくさん含まれています。

いまぐるしく変化していく未来において、これらのプロジェクトが社会的課題を解決していくには、社員一人一人がさらに感性を刺激され、視野を広げるための環境づくりや仕組みが重要と考えています。社名にある「テクノ(技術)」「アート(感性)」を同時に突き詰めながら、はるか先の壮大な目標に向けて新たな価値を創造しつづける会社を目指していくたいと思います。

リーダーが参加して、皆で進捗状況や課題を共有します。経営陣が委員会に加わることで、開発スピードも高まりました。また、全社で取り組むことで、新たなことに挑戦しようという機運も高まってきたように思います。

2018年からスタートして、現在機能性鋼糸・粉末焼成・AI・IoTなど16個のプロジェクトを同時に進めおり、その中には醸造以外の新たな事業への挑戦もたくさん含まれています。

いまぐるしく変化していく未来において、これらのプロジェクトが社会的課題を解決していくには、社員一人一人がさらに感性を刺激され、視野を広げるための環境づくりや仕組みが重要と考えています。社名にある「テクノ(技術)」「アート(感性)」を同時に突き詰めながら、はるか先の壮大な目標に向けて新たな価値を創造しつづける会社を目指していくたいと思います。